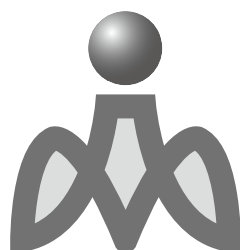


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔平成18年1月～3月実績〕
〔平成18年4月～6月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の景況概況	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 況	3
(2) 主な項目でみる業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 況	6
(2) 主な項目でみる業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 況	9
(2) 主な項目でみる業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 況	12
(2) 主な項目でみる業況	12

【I】 調 査 要 領

1. 調 査 対 象

- (1) 対 象 地 区 1 0 商工会
- (2) 対 象 企 業 数 1 6 5 企業
- (3) 回 答 企 業 数 1 6 5 企業

2. 調査対象期間

- 第 4 四半期 平成18年 1 月～ 3 月期
- 調 査 時 点 平成18年 3 月12日

3. 調 査 方 法

県下の調査対象企業を 1 0 商工会の経営指導員が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製 造 業	建 設 業	小 売 業	サービス業	計
塩 山 市	4	2	6	3	1 5
都 留 市	4	2	6	3	1 5
南アルプス市	4	2	6	3	1 5
北 杜 市	4	2	6	3	1 5
笛 吹 市	8	4	1 2	6	3 0
鰍 沢 町	4	2	6	3	1 5
身 延 町	4	2	6	3	1 5
田 富 玉 穂	4	2	6	3	1 5
河 口 湖	4	2	6	3	1 5
上 野 原 町	4	2	6	3	1 5
計	4 4	2 2	6 6	3 3	1 6 5

5. そ の 他

本報告書の D I 値とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の景況概況

売上額の指標は、今期は「小売業」「サービス業」では上昇しており「建設業」では横這いで「製造業」では下降した結果となっている。

「製造業」では前期は大幅に上昇したが今期は再び下降しており、県内中小企業では景気の回復は順調でないことも考えられる。

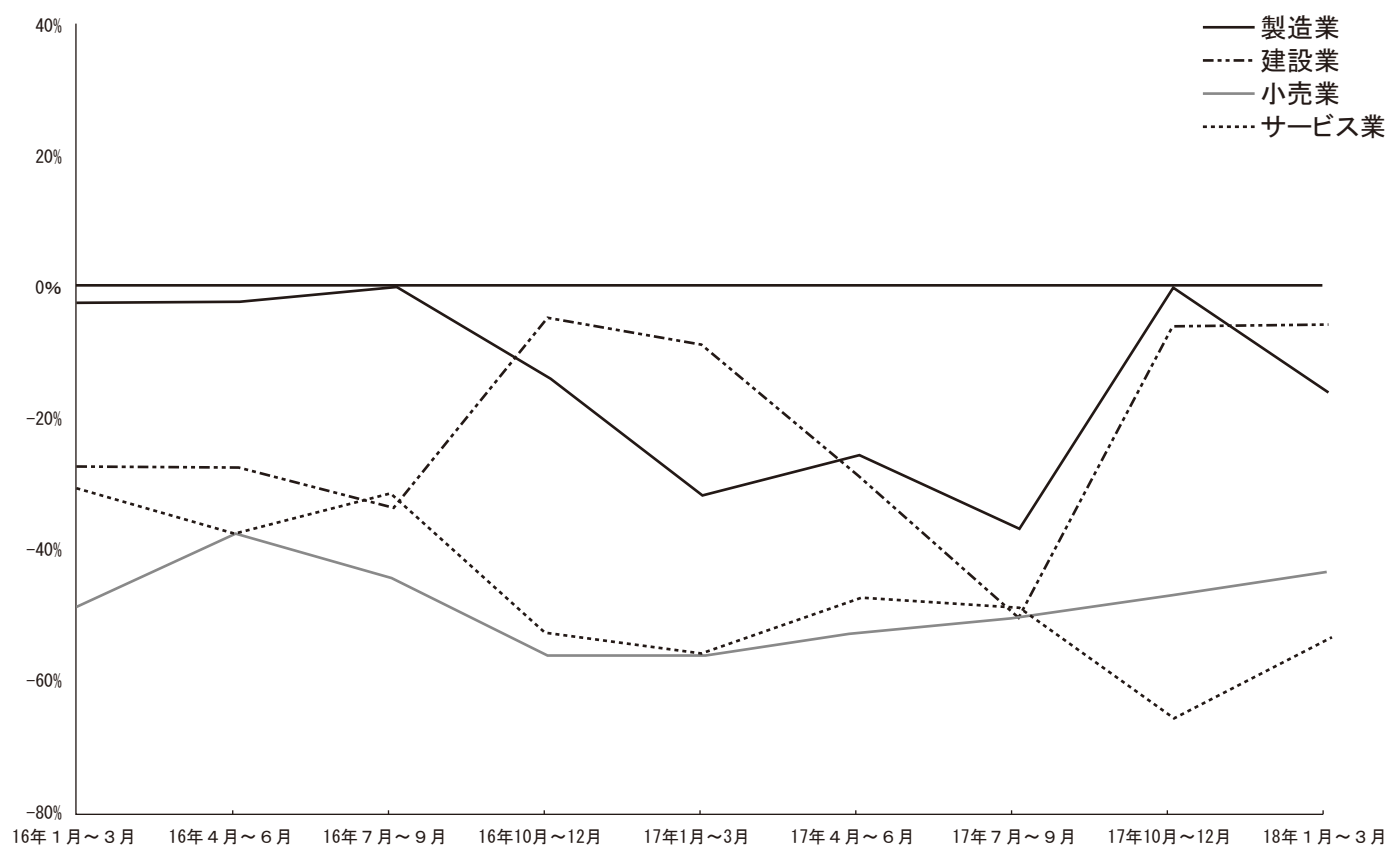
「建設業」では、大幅に上昇した前期に引き続き横這いで景況は回復基調ではあるが、「資金繰り」の指標は依然として低水準のままである。

「小売業」では売上額の指標は前期に引き続き上昇したものの、上昇幅はゆるやかであり、低水準のままである。

「サービス業」では前期よりは上昇したが、小売業と同様に回復のテンポは遅く低水準のままである。

山梨県 全産業 DI

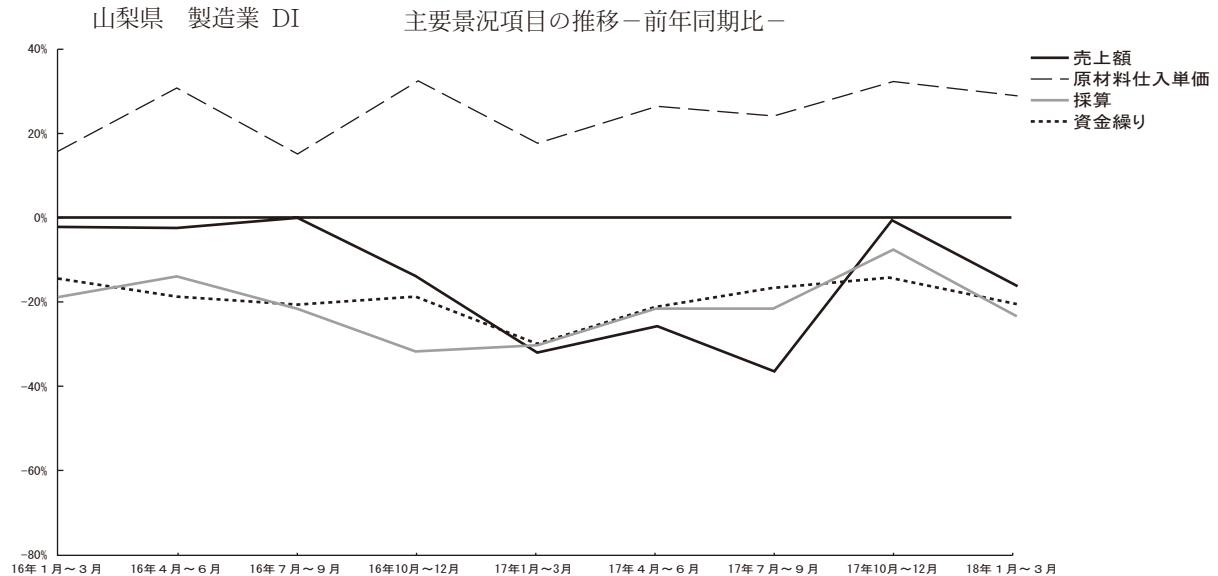
売上（完成工事）額の推移 ―前年同期比―



2. 製造業の動向

1. 景況概況

「売上額」の指標は、前期は大幅に上昇したが、今期は15.9ポイント下降に転じ－15.9%となった。
 輸出関連企業を中心に大手製造業では景気は好調であると言われているが、県内の中小製造業では、景気の回復は実感として伴わない面もあると思われる。
 「原材料仕入単価」は今期は3.4ポイント下降して29.0%となっているが、依然として前年同期比では高い値で上回って推移している。
 「採算」は前期より16.3ポイント下降して－23.3%となった。平成16年10～12月期以降連続4期にわたって改善していたが今期は下降に転じた。
 「資金繰り」は7.0ポイント下降して－20.9%と低水準のままである。



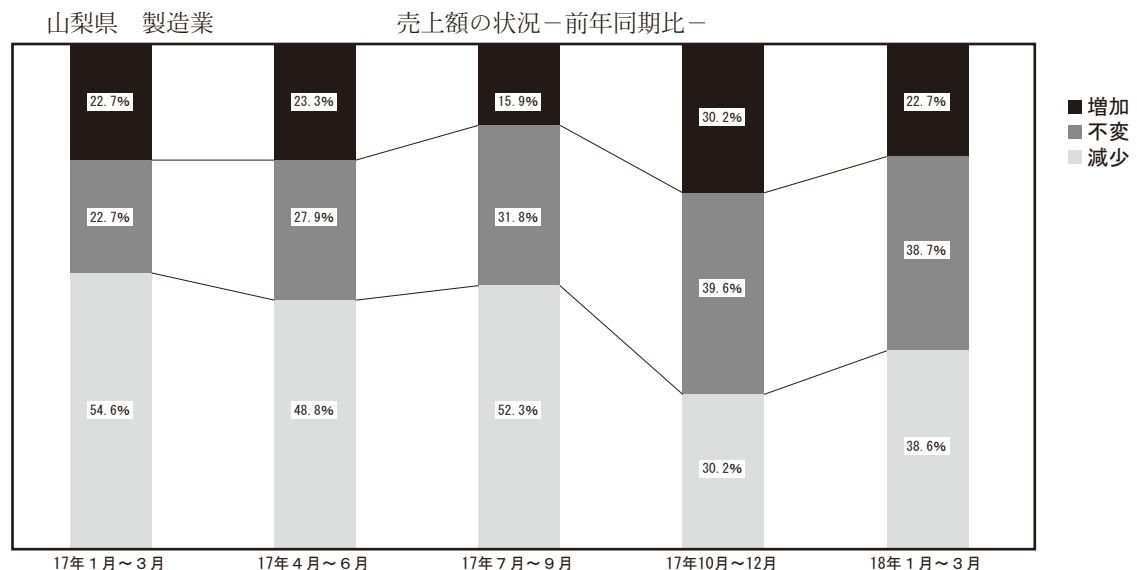
2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

前期は大幅に上昇したが、今期は15.9ポイント下降して－15.9%となった。都市部では大企業を中心に景気は好調であると言われているが、地方や中小企業では、それほどでもなく格差の増大が助長されているとも考えられる。

県内製造業の状況は（財）やまなし産業支援機構の「中小企業景気速報」平成18年3月号によると、県内下請企業の景況は、半導体・液晶製造装置・自動車・工作機械・デジタル機器部品などの多くの品目で忙しいとする企業が多く、総じて好調な稼働状況が続いていると発表している。

その一方地場産業の分野では、家具関係は、引き続き弱含みの状況。ニット・縫製関係は、夏物の生産でまずまずの稼働状況にある。貴金属装身具関係は、フェア等の開催で多少動きが見られたが、依然厳しい状況にあると報告している。



(2) 採 算

売上高の下降に連動しており、前期より16.3ポイント下降して-23.3%となった。平成16年10～12月期を底として連続4期改善傾向となっていたが、今期は下降に転じた。

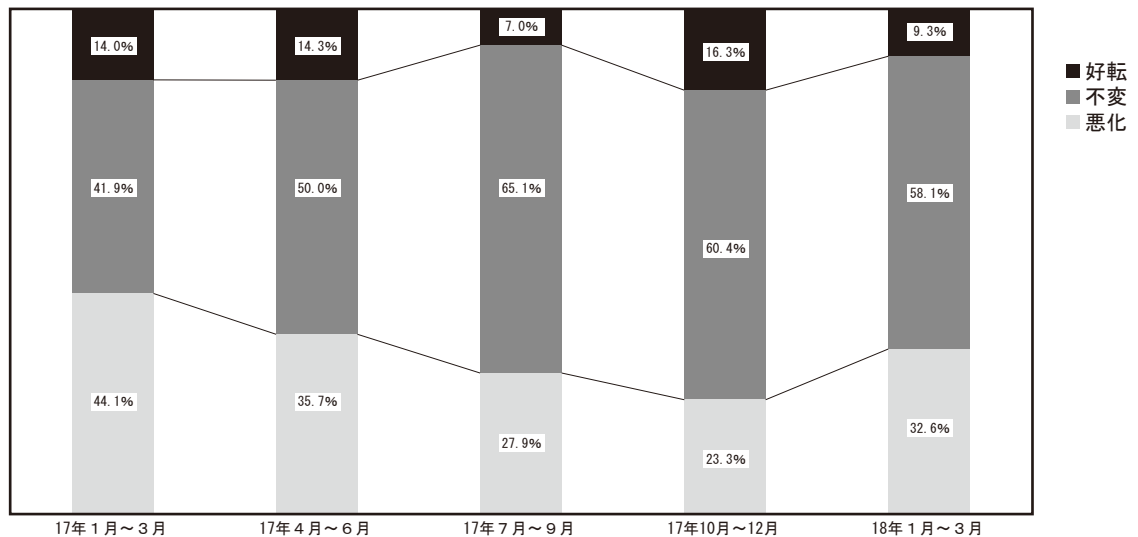
「従業員（含臨時・パート）」は売上高の下降もあり今期は6.9ポイント下降して2.4%となっている。

「原材料仕入単価」は、依然として高い水準で推移している。価格の高騰は海外での原油価の高騰に起因しているといわれる。

供給地域であるイラン、イラクを中心とする西アジア、アラブ地域が政情不安定で生産体制の遅れに起因するという見方もあるが、今後とも注視していく必要がある。

山梨県 製造業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

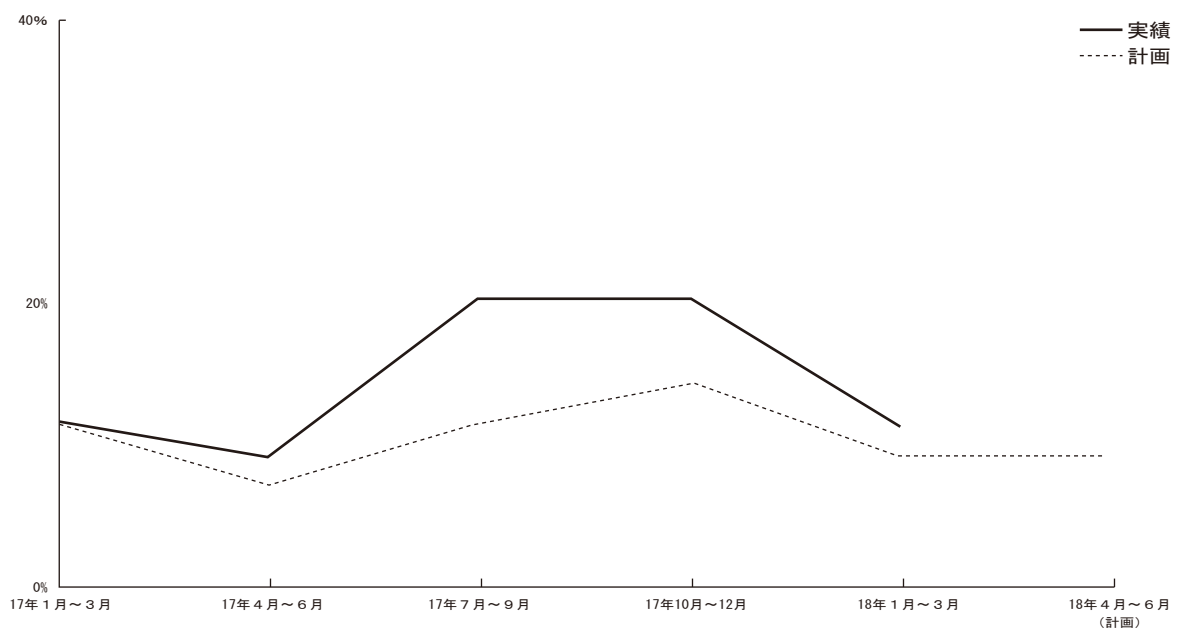
「今期実施」は、好調であった前期よりは9.1ポイント減少して11.4%の企業であった。今期も前期と同様に、計画していた企業は9.1%に対して、実施した企業のほうが11.4%と2.3ポイント多かった。

設備投資した内訳は「生産設備」が40.0%であり、「土地」、「工場建物」、「OA機器」、「その他」はいずれも20.0%であった。「付帯設備」については計画はしていたものの実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は9.1%と、今期の計画と同様の水準である。

山梨県 製造業

設備投資の状況

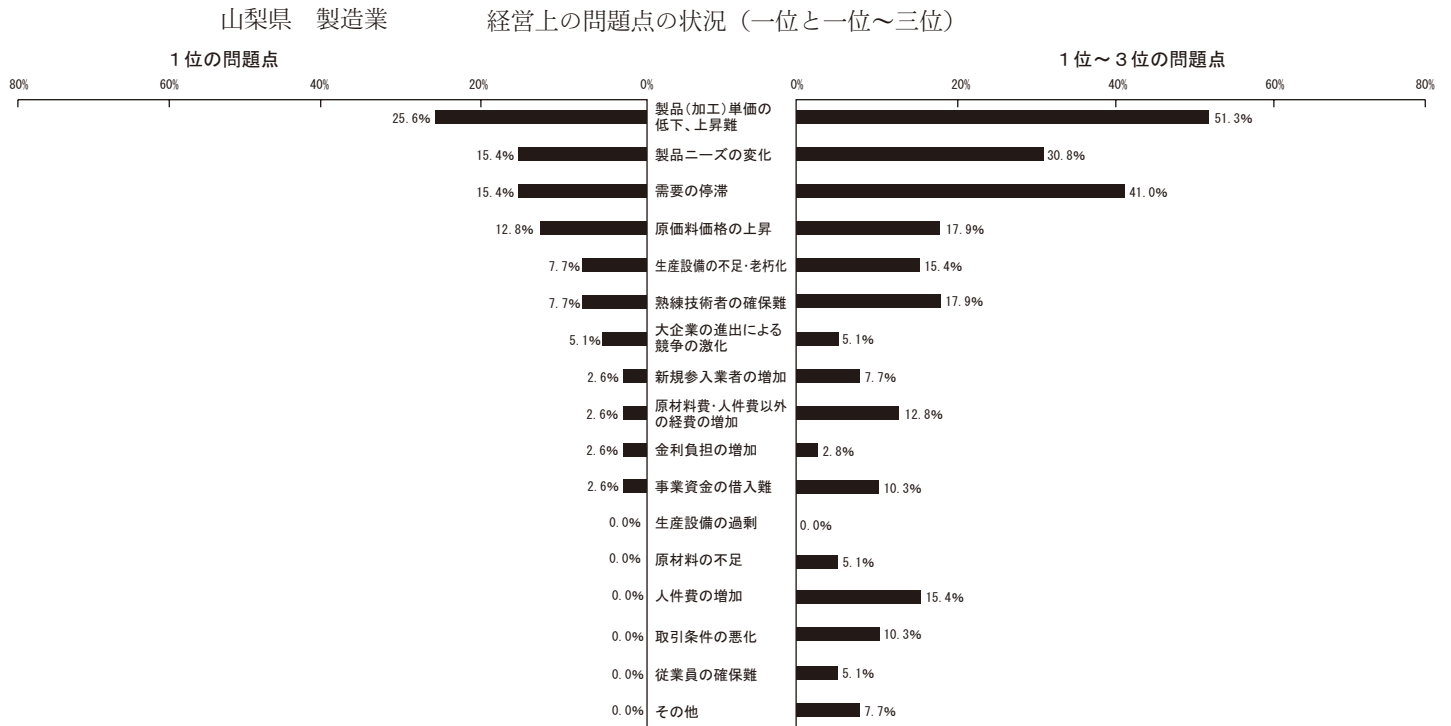


(4) 経営上の問題点

「製品（加工）単価の低下、上昇難」は0.6ポイント増加して25.6%と前期に引き続き1番多い項目となっている。コストダウンの要請は多いものと見られるので、品質がいいものを安く製造する技術改善がさらに必要となってきている。

「需要の停滞」は前期より0.4ポイント増加して15.4%となり、「製品ニーズの変化」は7.9ポイント増加して同じく15.4%と共に2番目に多い項目となっている。

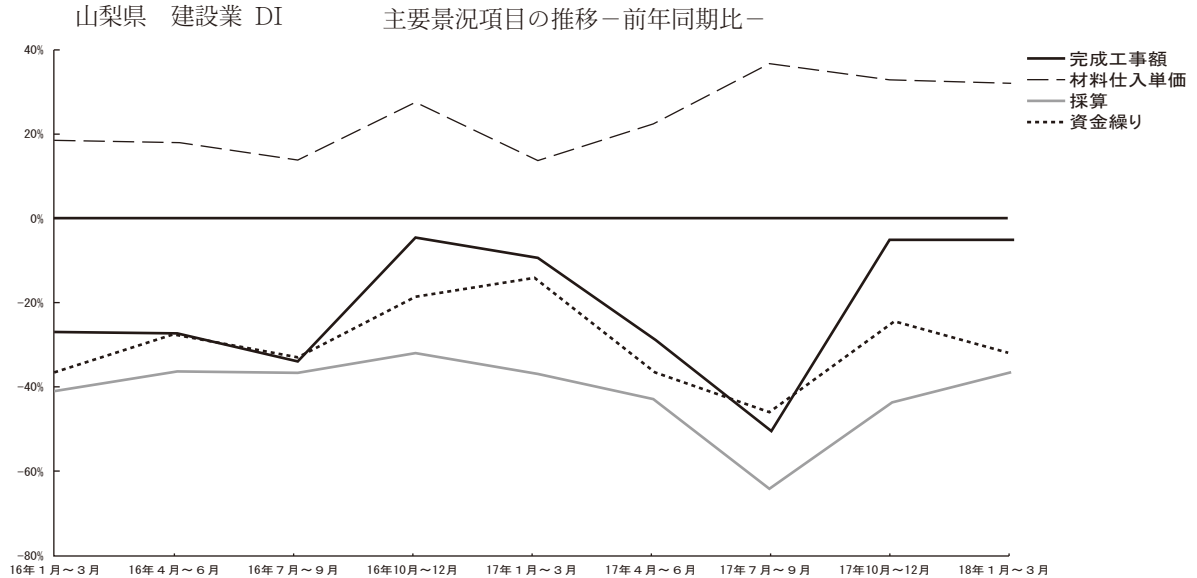
「原材料価格の上昇」は前期より7.8ポイント増加して12.8%と4番目に多い項目となっている。海外での原油価格の上昇はさらに進んでおり、関連材料などの値上がりが懸念される。



3. 建設業の動向

1. 景況概況

「完成工事額」は前期（平成17年10～12月期）より0.2ポイントとわずかに上昇して－4.5%となった。
 「材料仕入単価」は今期は1.4ポイント下降して31.9%となっているが、前期と同様に前年同期と比較すると引き続き依然として高い水準で推移している。
 「採算」は完成工事高が好調であるのに連動して6.5ポイント上昇して－36.4%となっているが回復のテンポはゆるやかである。但し平成17年7～9月期を底として回復基調とはなっている。
 「資金繰り」は他の指標とは連動しておらず、前期より8.0ポイント下降して－31.8%となっている。

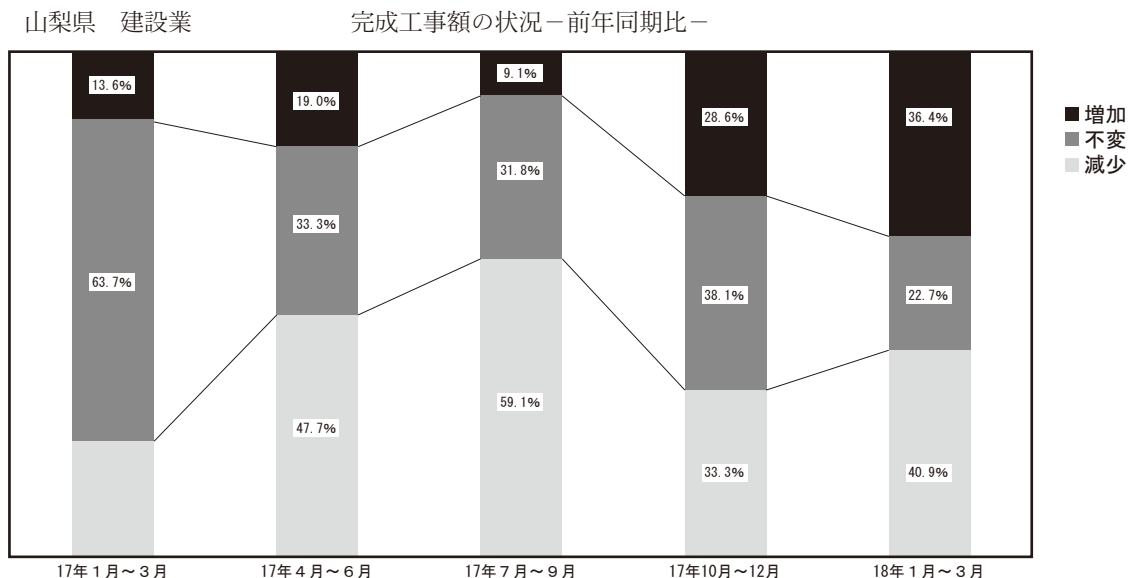


2. 主な項目で見る業況

(1) 完成工事額

前期（平成17年10～12月期）は大幅に上昇したが、今期は0.2ポイントとわずかに上昇して－4.5%となった。但し経営上の問題点では「民間需要の停滞」を挙げる企業は増加しており、本格的な回復になるか否かは判断を許さない。

山梨県建築指導課で発表している「新設住宅着工戸数」では平成18年2月の住宅着工は、分譲住宅で大幅な増加となり、全体として増加になったと報告している。新設住宅戸数は568戸で前年同期比で40.2ポイント増であり3ヶ月連続の増加となった。内訳は持家が233戸で前年同期比8.9ポイント増、貸家が208戸で30.0ポイント増であり、分譲住宅は127戸で309.7ポイント増になった。



(2) 採 算

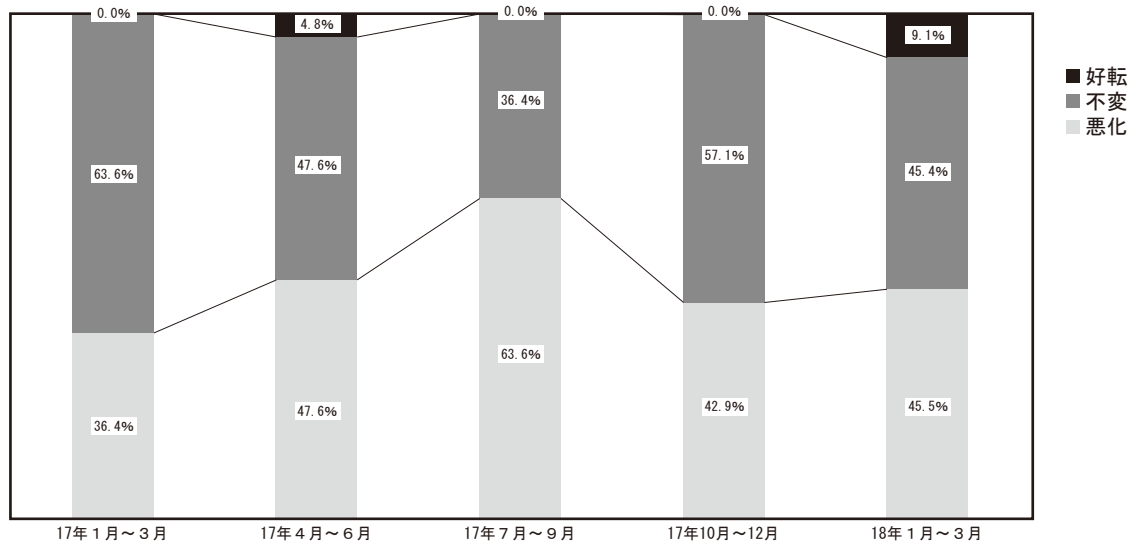
前期より6.5ポイント上昇して－36.4%となった。完成工事額が回復基調であるのに比較すると、若干ゆるやかな回復テンポである。

「従業員（含臨時・パート）」は前期は上昇したが今期は再び15.0ポイント下降して－15.0%となった。

経営上の問題点では製造業と同様に「材料価格の上昇」が大きな問題点として前期に引き続き多く挙げられてきている。耐震強度偽装事件でも問題になっているが、企業としては材料のコスト削減をはかると共に、建築基準法遵守の姿勢で品質の高い業務を実施していくことが高い評価につながっていくものと思われる。それをふまえた上で、品質を十分に満足するということを重視しつつ材料コストの削減にも果敢に挑戦していくことが必要と思われる。

山梨県 建設業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

前期に引き続き3.6ポイント増加して13.6%と比較的多くの企業が実施した結果となっている。

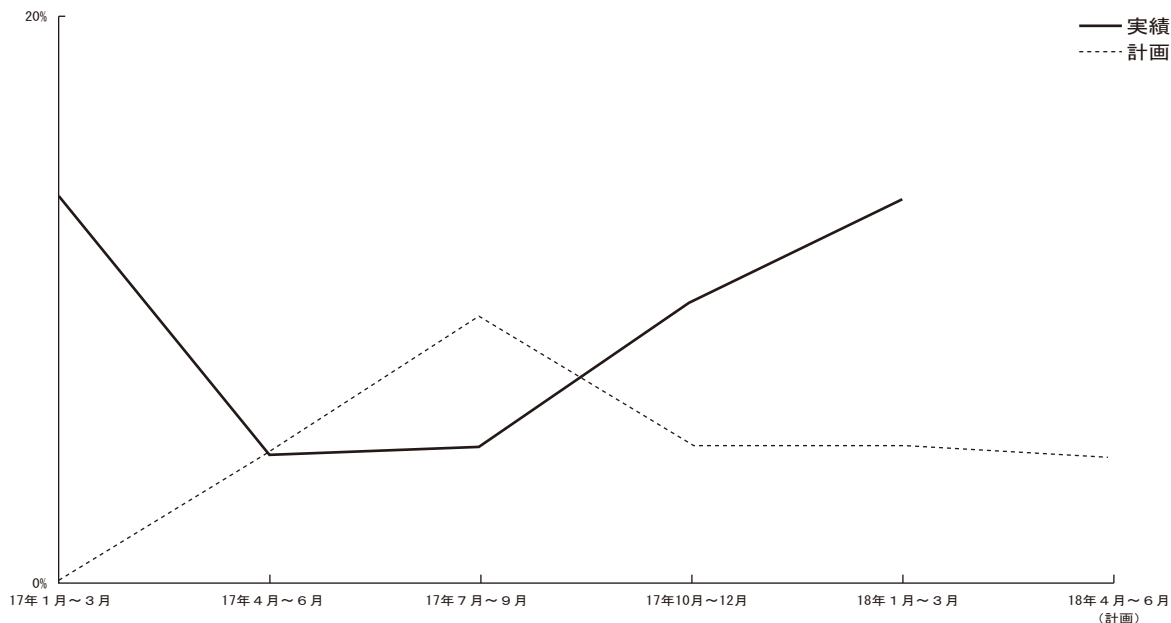
計画していた企業は4.8%であったので、今期も実施した企業の方が多いという結果であった。

設備投資した内訳は「建設機械」が66.7%「OA機器」も66.7%であった。

「来期実施予定」は今期とほぼ同様な水準であり、4.5%の企業が計画している。

山梨県 建設業

設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

今期は「民間需要の停滞」が18.2ポイントと大幅に増加して36.4%となり1番多い項目となった。

平成17年7～9月期、10～12月期では比較的少なかったものの今期は再び増加した結果となっている。

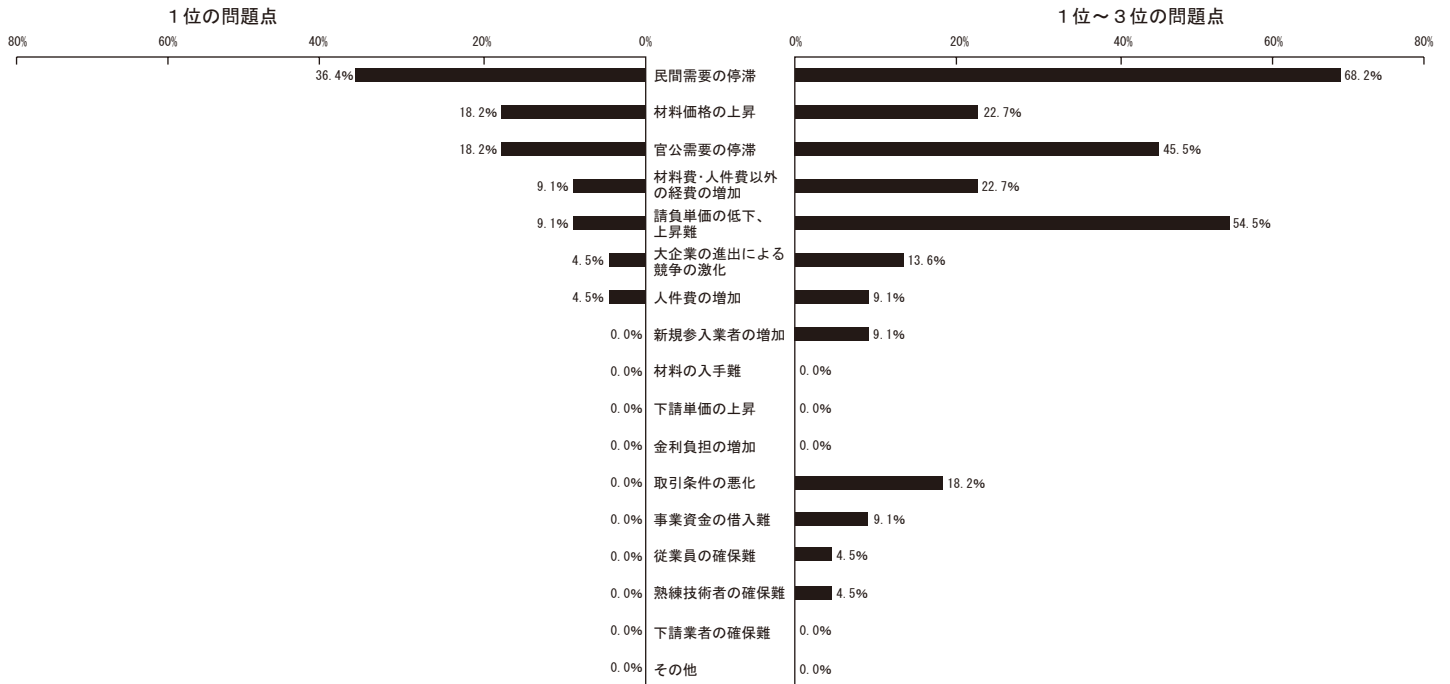
その次に多い項目は「官公需要の停滞」であり4.5ポイント減少したが18.2%である。「材料価格の上昇」は4.6ポイント上昇して同じく18.2%と2番目に多い項目となっている。

問題点としての「材料価格の上昇」は前期から急激に増加してきており、企業では深刻な課題となってきているものとみられる。

問題点の1位から3位までに挙げられる項目では「請負単価の低下、上昇難」が13.7ポイント減少したが54.5%と2番目に多い項目として挙げられている。

山梨県 建設業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



4. 小 売 業 の 動 向

1. 景 況 概 況

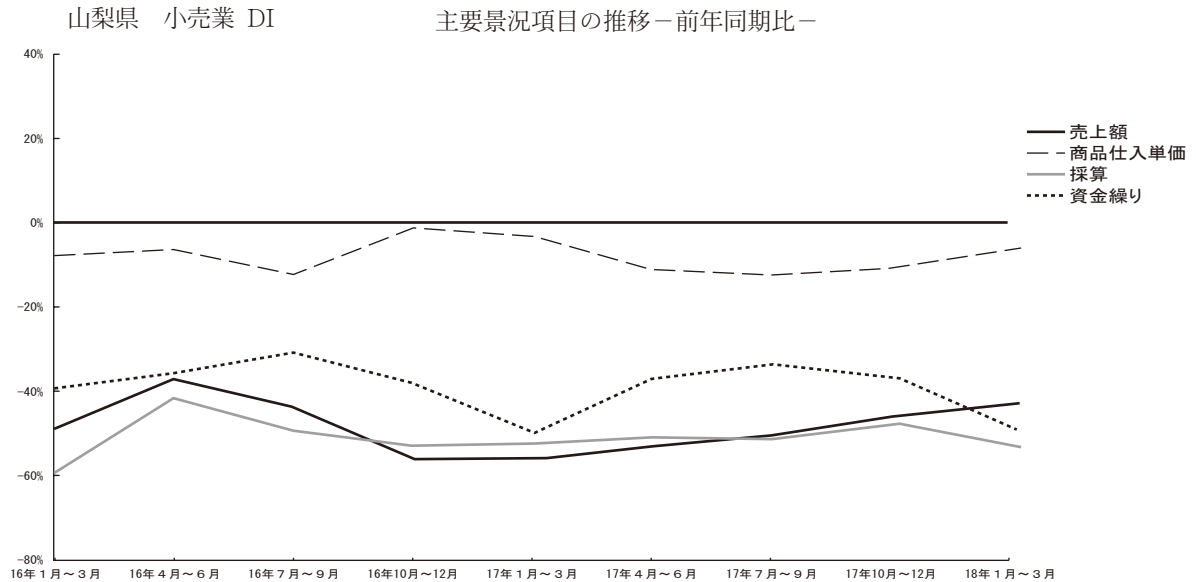
「売上額」は前期より3.2ポイント上昇して－42.9%となった。前期に引き続き改善傾向ではあるものの、改善速度はかなりゆっくりとしている。

経営上の問題点では「需要の停滞」が増加傾向となっている。

「商品仕入単価」は前期より4.7ポイント上昇して－6.4%となった。前年同期比では、まだマイナスとなっているが上昇傾向であり今後注視していく必要がある。

「採算」は売上高が上昇したにもかかわらず5.7ポイント下降して－53.3%となっており依然として低水準のままである。

「資金繰り」は前期より12.7ポイントと大幅に下降して－49.2%となった。



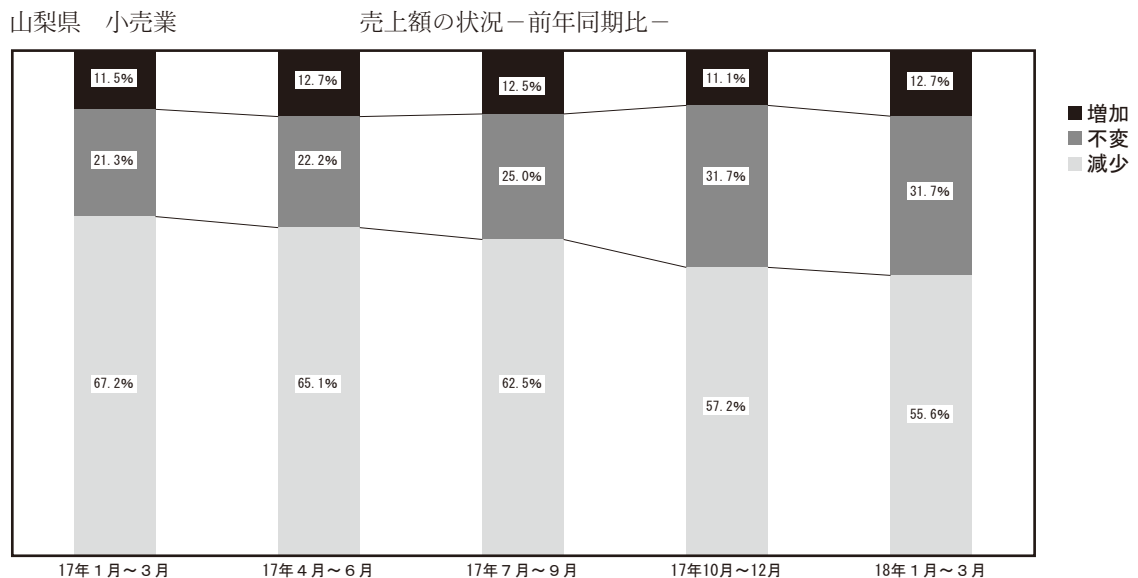
2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

前期に引き続き3.2%ポイント上昇して－42.9%となったが他の業種と比較すると依然として回復のテンポは遅く低水準のままである。

「客単価」は前期より3.2ポイント上昇して－40.3%となり「客数」も2.6ポイント上昇して－51.5%と一定程度の回復基調となっている。

経済産業省の商業販売統計速報平成18年2月分によると、全国の小売販売額の動向は9兆8620億円で前年同期比1.0ポイントの増加となった。業種別では燃料小売業が10.9ポイントの増加、その他小売業が3.5ポイントの増加、自動車小売業が2.9ポイントの増加となった。一方織物・衣服・身の回り小売業が2.9ポイントの減少、飲食料品小売業が2.5ポイントの減少、各種商品小売業（百貨店など）が2.4ポイントの減少、機械器具小売業が1.4ポイントの減少と報告している。



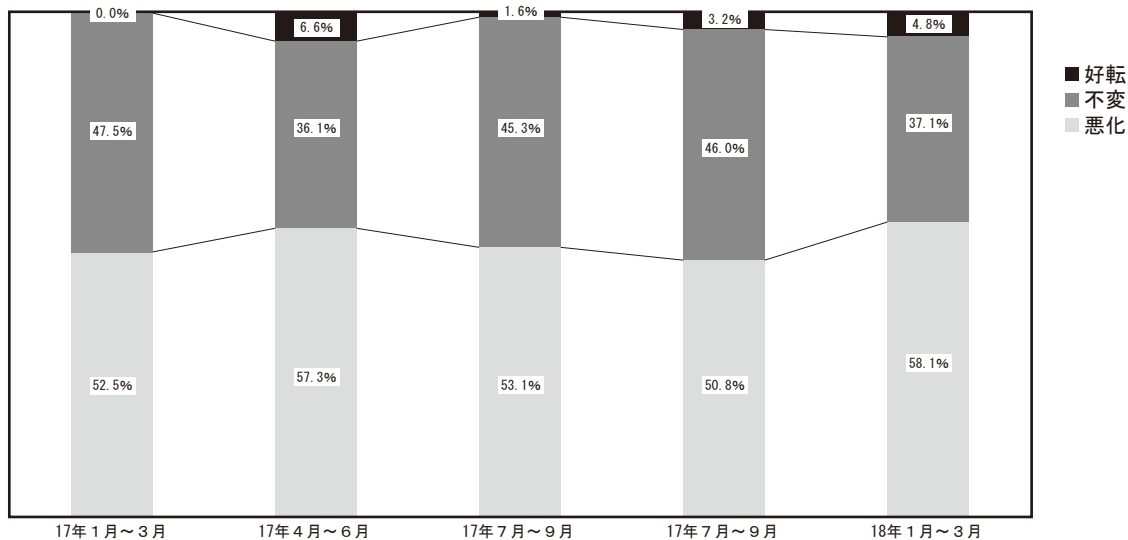
(2) 採 算

売上高は上昇したにもかかわらず5.7ポイント下降して－53.3%となった。依然として低水準のままである。「従業員（含臨時・パート）」の指標は3.9ポイント下降して－3.9%と少なくなっている。

経営上の問題点では大型店・中型店の進出による競争の激化を挙げる企業が多い。経済産業省の商業販売統計速報平成18年2月分によると、全国の大型小売店販売額は1兆4907億円で前年同期比1.6ポイントの減少であり、百貨店は0.5ポイントの減少、スーパーは2.4ポイントと減少となったと報告している。又コンビニエンスストアの売上額は5185億円で前年同期比1.8ポイントの増加であり、商品別に見るとファーストフード及び日用品が4.0ポイントの増、加工食品が0.2ポイントの減少、非食品が1.4ポイント増と報告している。

山梨県 小売業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

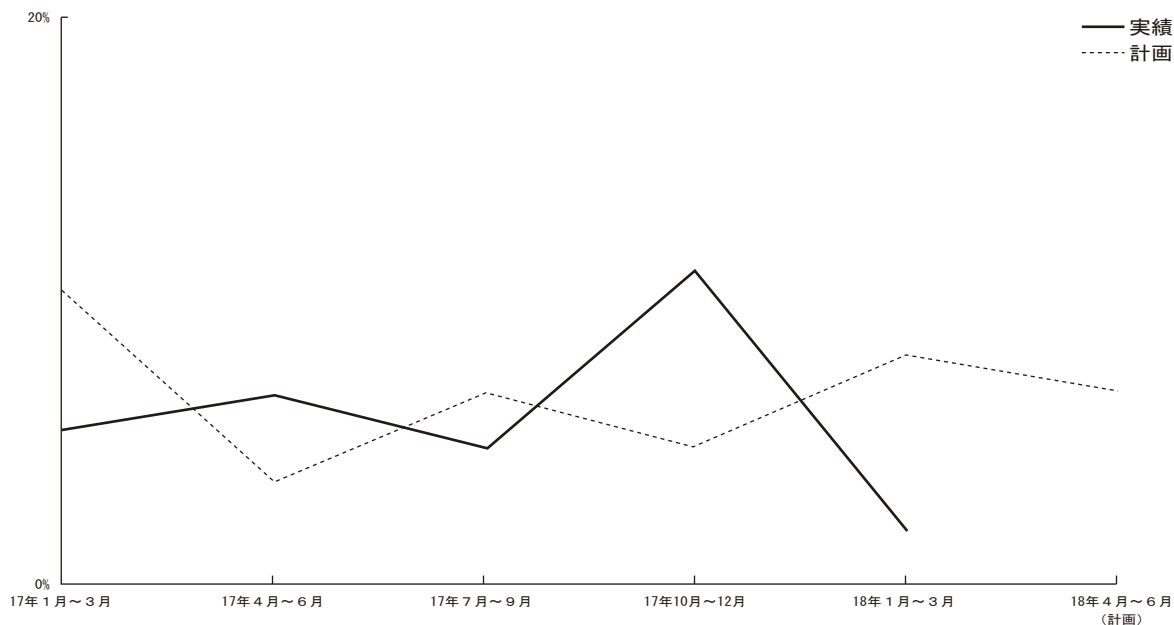
設備投資した企業は前期より△9.4ポイントと大幅に減少して1.7%となった。計画の段階では8.1%の企業であったので実施した企業は計画段階よりも、かなり少なかった。

設備投資した内訳は「OA機器」が予定はなかったが設備投資に至った。「店舗」、「販売設備」、「車両運搬具」、「付帯設備」について計画はしていたものの、いずれも今期は実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は6.8%であり、今期計画していた企業よりは少ないが実施した企業よりは増加する予定となっている。

山梨県 小売業 DI

設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「大型店・中型店の進出による競争の激化」は前期より2.5ポイント減少したが45.8%と一番多い項目となっている。前期に引き続き多く挙げられており深刻な問題となっている。

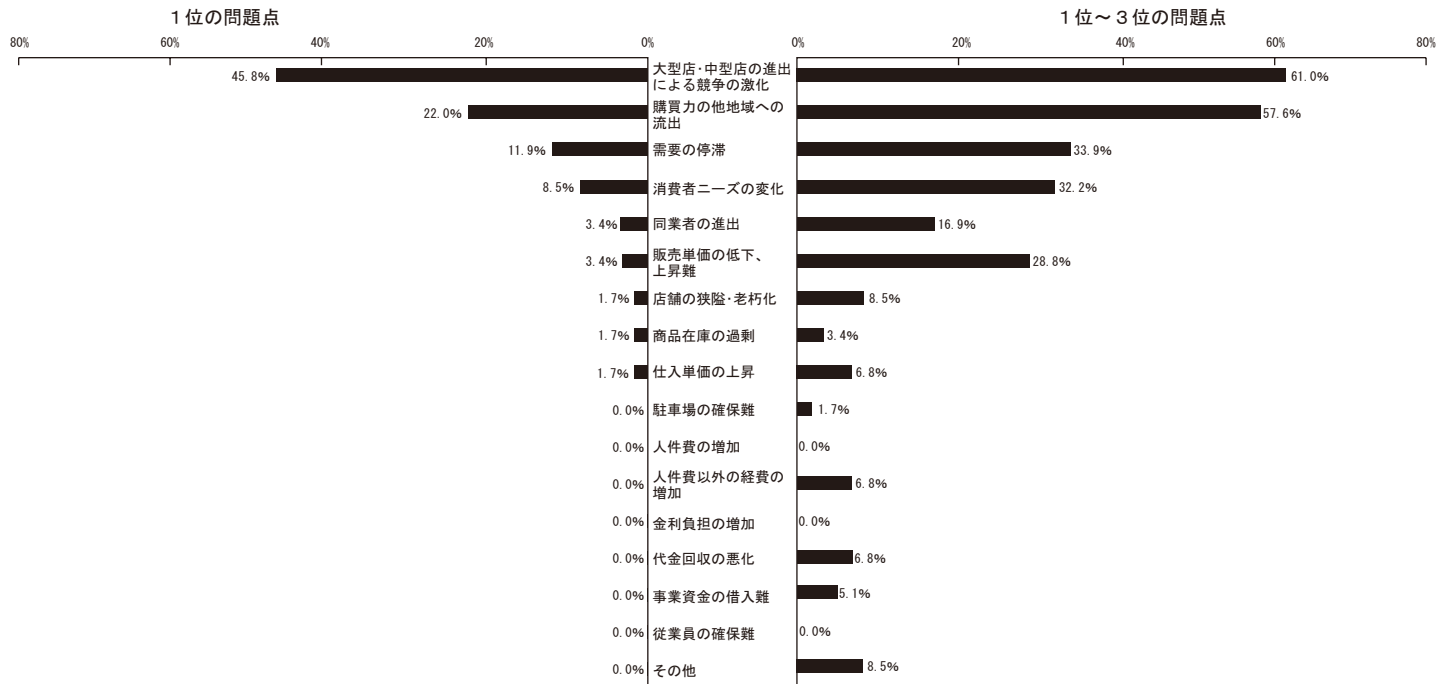
2番目に多い項目も前期と同じく「購買力の他地域への流出」であり前期から5.3ポイント増加して22.0%となっている。

3番目に多い項目は「需要の停滞」であり1.9ポイント増加して11.9%となった。平成17年7～9月期以降ではしだいに増加してきている。

4番目に多い項目は「消費者ニーズの変化」であり3.2ポイント減少したが8.5%となっている。

山梨県 小売業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）



5. サービス業の動向

1. 景況概況

「売上額」は前期（平成17年10～12月期）より12.7ポイント上昇して－52.9%となったが依然として低水準のままである。

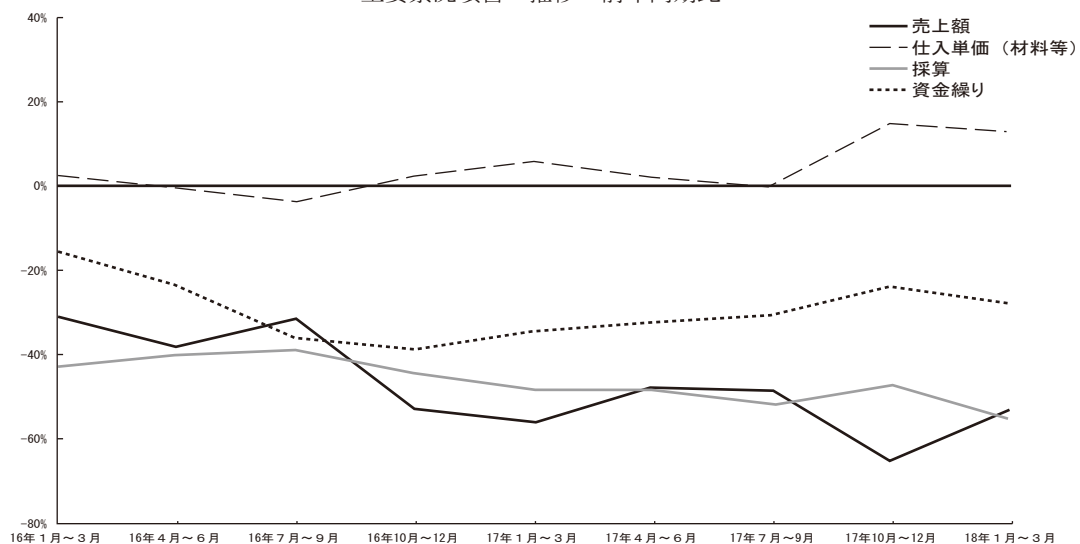
「仕入単価（材料等）」は前期より2.2ポイント下降したが12.5%であり前期と同様に前年同期を上回っており、コスト高の要因になっているものと思われる。今後とも注視していく必要がある。

「採算」については7.4ポイント下降して－54.5%となった。前期は上昇したが再び下降した。「従業員（含臨時・パート）」の指標は上昇傾向となっており、コスト高の一因となっていると推察される。

「資金繰り」は今期も4.5ポイント下降して－28.1%となった。

山梨県 サービス業 DI

主要景況項目の推移－前年同期比－



2. 主な項目で見る業況

(1) 売上額

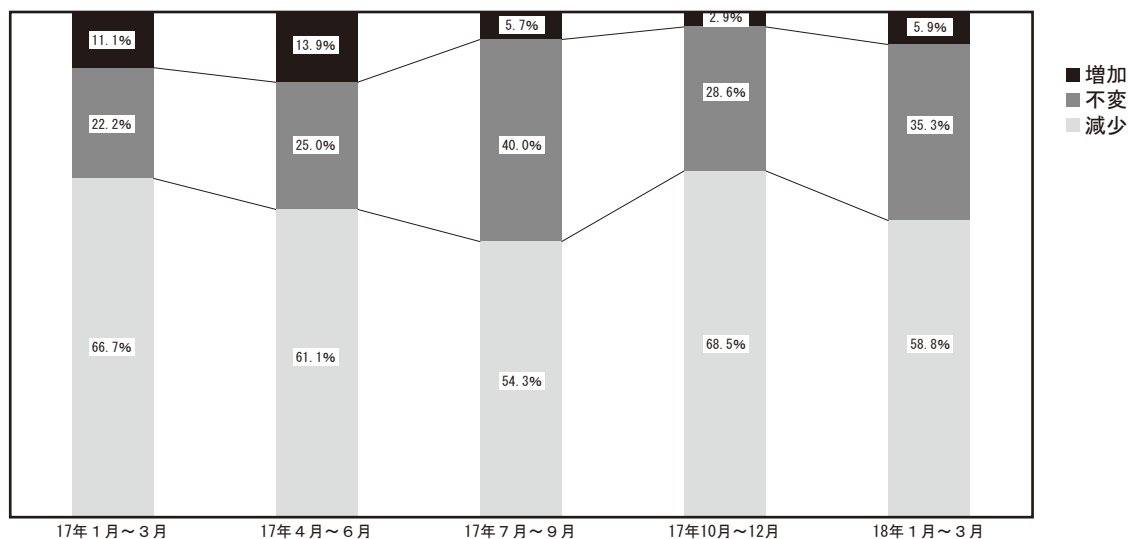
前期（平成17年10～12月期）より12.7ポイント上昇して－52.9%となった。前期は大きく下降し、今期は上昇した結果となっているが、依然として低水準である。

「客単価」は前期より7.7ポイント上昇して－29.4%であり、「客数」も6.0ポイント上昇して－54.6%となっている。両指標とも上昇した結果となっている。

厚生労働省山梨労働局が発表した平成18年2月の新規求人数は5,805人となり、前年同期比では16.2ポイント(809人)の増加となった。産業別で増加が多い業種は情報通信業64.9ポイント、運輸業44.1ポイント、医療・福祉業37.7ポイント、卸売・小売業36.8ポイントなどである。一方減少した業種は教育・学習支援業40.0ポイント、飲食店・宿泊業4.1ポイント、建設業1.2ポイント等と発表している。

山梨県 サービス業

売上額の状況－前年同期比－



(2) 採 算

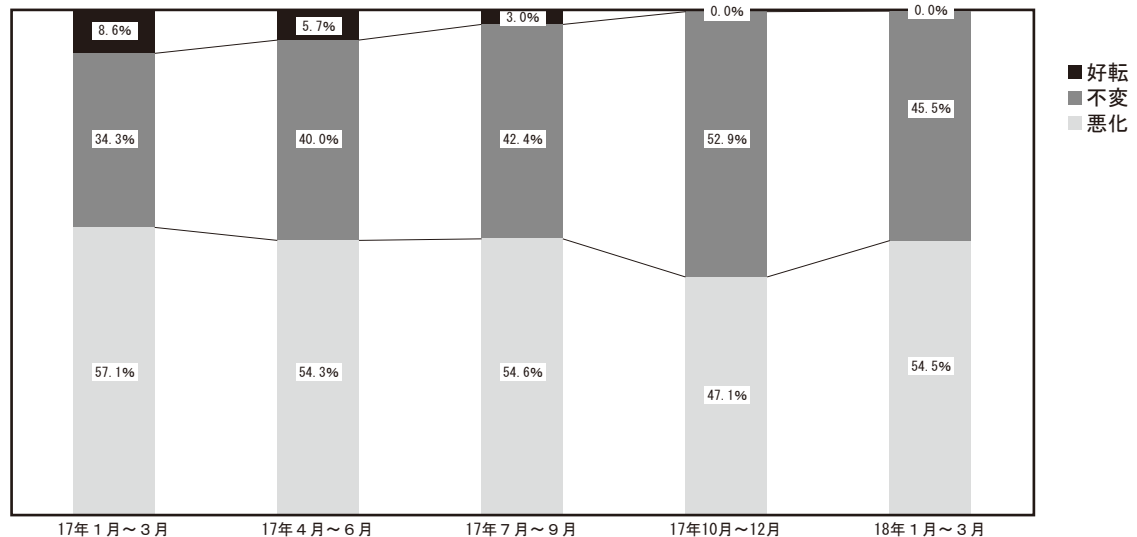
前期より7.4ポイント下降して－54.5%となった。前期と同様に売上額は上昇したもののそれには連動せず下降した結果となっている。

「従業員（含臨時・パート）」は前期より3.4ポイント上昇して0.0%となっており前期に引き続き増加傾向となっている。

又「仕入単価（材料等）」は12.5%で前年同期を上回って推移しており今後とも注視していく必要がある。経営上の問題点では「需要の停滞」の次に「利用者ニーズの変化」が項目として多くの企業で挙げられている。日常的に消費者のニーズを把握していく中で、柔軟に対応できる経営姿勢が必要とされてきている。

山梨県 サービス業

採算の状況－前年同期比－



(3) 設備投資

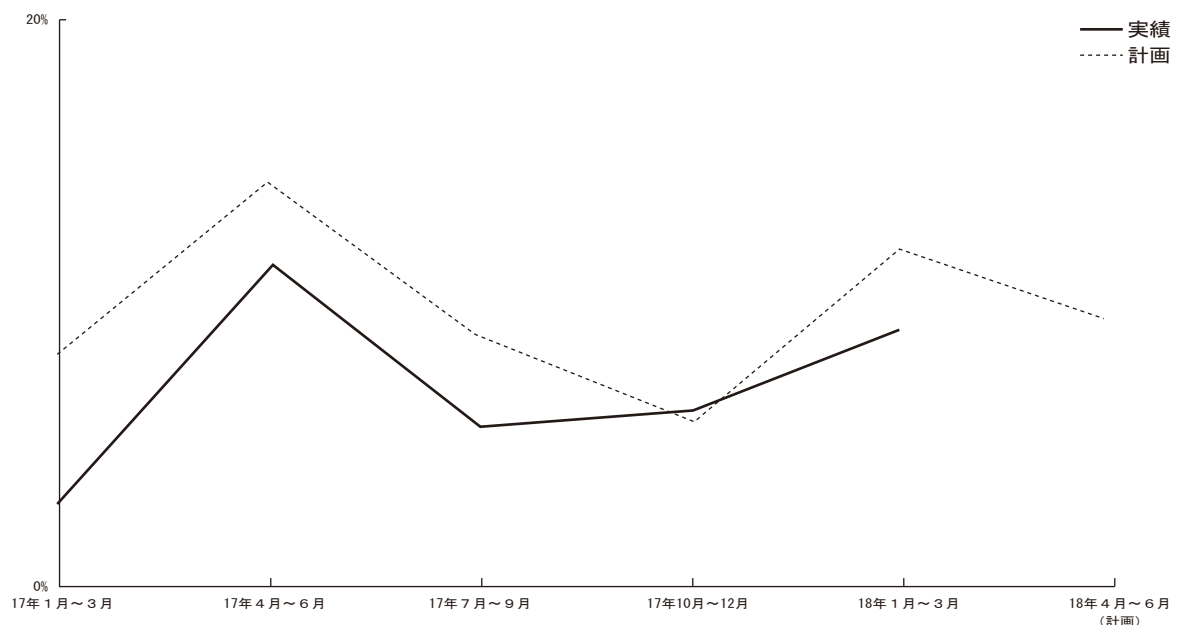
今期実施した企業は、前期より2.9ポイントと増加して9.1%となった。計画していた企業は12.1%であったので実施した企業のほうが少なかった。

設備投資した内訳は「建物」、「付帯施設」、「OA機器」がいずれも33.3%であった。「サービス」、「その他」については計画していたものの実施までには至らなかった。

「来期実施予定」は今期計画した企業より減少する予定であり、9.4%の企業となっている。

山梨県 サービス業

設備投資の状況



(4) 経営上の問題点

「需要の停滞」は前期より0.9ポイント増加して31.2%と増加した前期よりさらに増加して引き続き一番多い項目となっている。

次に多い項目は「利用者ニーズの変化」であり6.8ポイント増加して25.0%と2番目に多い項目となっている。株価の上昇や景気の一定程度の改善により、利用者の消費動向が再び変化してきているものと見られる。

「新規参入業者の増加」は8.6ポイント減少したが15.6%と3番目に多い項目となっている。

経営上の問題点で1位から3位までに挙げられる項目では、前期と同じく「利用料金の低下、上昇難」が1.8ポイント減少したが40.6%と3番目に多い項目となっている。

山梨県 サービス業

経営上の問題点の状況（一位と一位～三位）

